

# 平成20年度 地区懇談会のまとめ

多くの方々のご参加、誠にありがとうございました。本年度の地区懇談会の記録をまとめました。紙面の都合で短くまとめさせていただきましたが、どうかご了承下さい。

1 期日	平成20年9月13日(土)	9:30~11:00	
2 会場	岩倉市立南部中学校 (全体会:体育館 分科会:本館2階各教室)		
3 内容	テーマ「7867って!(悩むなって!)」 ~地域ぐるみの子育て・参加者の交流と親睦~		
5分科会	(1) 第1分科会	「子どもとの接し方」	対話型
	(2) 第2分科会	「受験・中学生生活」	
	(3) 第3分科会	「携帯電話」	講話型
	(4) 第4分科会	「子どもの悩み」	
	(5) 第5分科会	「給食・残菜」	



## (1) 第1分科会 「子どもとの接し方」 参加人数32名

今回5つの分科会の中でも最もテーマが難しいのではないかとおりましたが、多数の来賓の皆様はじめ、お父さん方の参加もあり、有意義なディスカッションができました。

### <保護者>

- ・大学生の娘へのスキンシップも、親子で認め合っているからこそできる。
- ・子どもがやりたい!と言えれば気が乗らなくても必ず付き合う。
- ・小学生の娘がインターネットをしているが、内容に心配がある。
- ・父としては子に『何があった?』と聞きたいが、子どもが話してくれるまで待つ。
- ・仕事で帰りが遅いので、朝ごはんは一緒に食べている。

### <来賓>

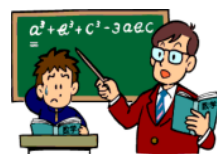
- ・昔TVで『良い子・悪い子・普通の子』とあったが、外見で決めてはいけない。
- ・自分のやりたいことをやらせてあげることは良いことだが、甘やかしてはいけない。
- ・今の親は『あれはダメ!これはダメ!』が多い。親も(いい意味で)バカになるといい。
- ・地域でのつながりが大切。昔は叱ってくれる大人がたくさんいた。
- ・今の父親は昔の父親よりも子どもに関わっているから感心した。

### <教師>

- ・祖父母と住む大家族!みんながオープンにその日あったことを話す。
- ・早く帰宅して大切な今を一緒に過ごす努力をしている。
- ・親が失敗しないようにと、先回りしすぎず、そっと寄り添い一緒に歩いていくことが大切なのは、

### 感想

- ・皆さんの一人の親としての真剣なまなざしがありました。
- ・今後の子育ての参考になりました。
- ・いろいろな子どもとの接し方があるんだなと思いました。
- ・さまざまな立場からのお話が聞けて、貴重な時間になりました。



## (2) 第2分科会 「受験・中学生生活」 参加人数26名

この講座は保護者が先生方に質問してそれに先生方が答える形式で行われました。

Q: 中学校に入って部活と勉強を両立するにはどうしたらよいか。

A: 部活動は季節によって下校時間が違う。はじめはぐったりして帰ってくるが日々の生活で部活動にも慣れていく。体を鍛えることは大切である。

Q: 受験生の親だが受験に向かってどのような体勢を整えればよいのか。

A: 本人の希望が第一。夏休み明けの希望調査ではまだ現実的ではないかもしれない。今の進路希望では合格の可能性が低い生徒もいる。2学期の間にテスト等で現実の状態を確認して進路相談をしていく。今は各家庭で公立、私立の情報を積極的に得ることもよい。

Q: 塾に行っている子とそうでない子との差はあるか

A: 学校ではつかみきれない。塾にも進学塾、補習塾と特徴がある。一概には言えない。

Q: 自分の学力でどのあたりの高校へ行けるのか本人はわかっているのか。

A: 学校の特色があるので学力だけでは決められない。周りの先輩からの情報を参考にすることもよい。

Q: 公立推薦制のシステムはどのようなものか

A: 第1希望の学校で、ぜひこの学校に行きたいという希望者が対象。学力、特別活動で業績を残したことも大切。進路希望調査(第4回)11月に推薦希望を出す。学校で推薦委員会を開いて許可が出るが、公立は難しい。

Q: 先生方が感じる南中とはどのようなか。

A: 子どもたちがのびのびしている。先生と生徒の距離が近い。ボランティア活動で地域とのつながりが深い。例えば、体育大会の門柱マスコット、応援の準備は子どもたちがすべてやり、ほとんど先生は手を出さなくてもできる。

Q: 小学校から中学校に行ってからの子どもの変化はどのようなか。

A: 子どもたちは順応が速い。前向きに生活していると思う。南中は20年ほど前はよくなかった。学校によって雰囲気は違うが、今の南中はとても和やかでいい。学力的にもあがってきている。

Q: 東小の子どもは少ないが南中へ来て仲良くできているか。

A: はじめは東小の子は小さくなっているが、次第に新しい人間関係が築かれるので心配はいらない。感想

- ・それぞれの質問事項について具体的に先生方が答えてもらったので参考になった。
- ・学校の選び方、受験に対する考え方を教えていただき参考になった。
- ・事前に質問に答える分担を決めておく良かったのではないかと。
- ・子どもを育ててきた人がいないので、もっと50~60代の年配者を招くと勉強になるのではないかと。
- ・入試のシステムについて詳しくわかった。安心して中学校に入学できることがわかってよかった。
- ・受験のことを詳しく聞けてよかった。
- ・先生方のいろいろな意見が伺えてとてもよかった。積極的な発言から学校の様子を感じることができた。

## (3) 第3分科会 「携帯電話」 講師 KDDI 安藤 歩氏 参加者数37名

### 現状

- ・私たち大人が被害者になるものも多いが、最近では未成年の子供が被害者になるだけでなく、加害者になる場合も増えている。迷惑メール、架空請求、チェーンメール、出会い系サイト、学校裏サイト(電子掲示板)プロフなど
- ・携帯は、H19で利用率が小学生30%、中学生57.6%、高校生100%であるのに、家庭でのルールを何も決めていない60%、何かあった場合、親に相談する16.6%と危険性には意外と注意していないのが現状である。

### 対処法

- ・子供の使う携帯、パソコンへのフィルタリング(有害サイトアクセス制限サービス)のすすめ。
- ・ネット、携帯を通しての社会も現実社会の常識やマナーと本質的に同じであること。

### 言動、判断、自制は自己責任

文章、発言は相手のことを思いやる謙虚さを(自分に置き換えて)名誉や著作権、肖像権など人の権利を侵害しない(文章、音楽、写真など)むやみに個人情報(自分のこと、家族のこと)を公開しない。ID、パスワードはしっかり管理する。

危険なサイトや怪しいメールは開かない。

### ウイルスへの対策

- ・パソコンを利用したり携帯を与えるときに、家族で話し合い、ルールを決め、納得して使用することが大切。インターネット、携帯は、危険性やトラブルもあるけれど、正しく使えば楽しく便利で快適である。

### 感想

- ・携帯の奥は深いなと思いました。聞いたことがない言葉がたくさんありました。家に帰って高校生の息子と話し合いたいと思います。
- ・小学校3年生の子どもが、いずれ携帯を持ちたいと言っています。今日の話参考にしていきたいと思えます。
- ・インターネットの犯罪はとても怖い。しかし、フィルタリングソフトなどの発達によって少しずつ安全なものになっていることがわかり安心した。ネットの中にもモラルがあるようになるとよいと思う。
- ・子どもと携帯電話のルールを今一度考えたいと思い、出席しました。今まで知っている知識がほとんどだったので、もう少し踏み込んでいただけたらうれしかったです。
- ・何気なく日々使っている携帯電話やインターネットで、こんなにもいろいろなことが起きているとは思ってびっくりしました。
- ・フィルタリングでも人間性のフィルタリングが大切だと思いました。
- ・親子での話し合いのもとに、携帯電話を使っていく必要性を改めて感じた。
- ・また、実際の事例ももっとお話ししたいと思いました。



## (4) 第4分科会 「子どもの悩み」 参加人数32名

講師: 曾野小学校親と子の相談員 伊藤 和美先生

小学校で子どもと親の相談員をしてみえる伊藤和美先生をお招きし、子どもたちがどんな悩みを抱えて相談室に来るのか事例紹介をしながら具体的な話を聞くことができました。当日の流れは次の通りです。

はじめにいつ相談員が配置されたのか?流れの背景を聞きました。日本は、2000年に入ってから10代の自殺が増えたため文科省から相談員を配置するよう指導があり、平成16年度より配置されました。岩倉市では、平成16、17年度に北小学校へ、平成18年度に曾野小学校へ配置され、19年度より保護者の要望で全小中学校の7校へ配置されるようになりました。

いくつかの事例を低学年の男子、女子、高学年の男子、女子の4つに分けてどんな悩みを抱えて



いるのか「内容」「指導・対応」「結果」を具体的に話をしてくださいました。

Q&A：の時間をもうけました。一部紹介します。

Q：発達障害について教えて下さい。

A：集団の中に入ると、自分を制御できなくなり乱暴になりがちです。最近、低学年でみられることが多く、もし疑いがある場合は相談員、医者に相談してほしい。傾向として発達障害の子は、きれいな物や姿が好きで執着するようです。

Q：家庭や勉強などの悩みを相談されますか？

A：家庭の悩みを持つ子は、体の不調を訴えるようになり保健室へ来る回数が増え、ゆくゆくは養護の先生に相談する事が多い。相談室には圧倒的に友達関係の悩みが多く、例え家庭の悩みを相談された場合でも、実際家庭の問題には踏み込めない場合がある。地域の民生委員の方をお願いして情報提供することもあります。

最後に参加者の意見、感想そして先生のまとめの話を聞いて講座を終えました。

・子どもは、困ったり悩んだりすると必ずに変化が表れます。その変化＝信号・サインを見逃さないように見守っていただきたい。おかしいな？と思ったときは、あまり根掘り葉掘り聞かないようにしたい。

・子どもたちの悩みは、家庭だけで解決できるとは限りません。家庭では親、学校では先生や相談員、また地域では民生委員の方など相談できる方々がいます。ぜひ困った時は遠慮せず相談してください。子どもの悩みに関わらず、＜家庭＞＜学校＞＜地域＞の連携・協力はより良い子どもを育てるには欠かせないとても大切なことだと思います。

感想

・相談室、相談員の役割がよくわかりました。私も親として子どもの声を傾聴し楽しい学校生活になるよう配慮していきたいと思います。

・中学生の子供たちの悩みも聞きたかった。

・事例紹介を踏まえての講演だったので、具体的にイメージしながら聞くことができました。

・子どもの変化を見つけられるようアンテナを広げ毎日過ごしたいと思います。

・15年振りの地区懇談会への参加でした。時代は変わっても子供を思う気持ちは変わらないという事を再認識しました。また、他の分科会も参加したかったです。

・実際に毎日子供とふれあっていますが、自分には話してくれない悩みや心の傷つきがあることを感じました。

・一人ひとりの子どもたちの個性があり、悩みに対し、アドバイスというより話を聞く事の大切さを感じました。

・時間厳守は良いが、もう少し質問に答えていただく時間を延長してほしいと思った。

・学校、家庭、地域の連携が大切だと言われますが、それが題目とならずに具体的な形で取り組まれているところがすばらしいと思った。

・小さい時期から自立させるような育児を心がけてきましたが、最近の子供たちには我慢の心が育っていないように思います。

・事例ごとに対応の仕方も違ってくるとは思うが、もう少し具体的な対応策が聞けると良かった。

・いろいろな形の悩みがあり、その多くが友達関係だというお話でしたが、家庭や勉強への相談が少ないというのが意外でした。また相談に来れない子供たちへの対応、問題も大きいかと思えます。この問題は永遠に続くかと思えますが、学校、家庭、地域の協力が必要だと思いました。

この他に、“あなたのエコ人間度”をチェック(ex.腐らせてしまうくらいなら、まとめて2個セールより1個だけ買うことにしている)したりして、楽しくお話を聞く事が出来ました。

(質疑応答)

Q：残菜の量はメニューによって違うのか。

A：野菜を使えば使うほど、皮などの残菜が増える。

Q：岩倉市は、給食費の価格は高いのか。

A：安い方である。

Q：野菜が嫌いな子どもに食べさせる対処法は？

A：好きな物と一緒に食べる。但し、混ぜてしまうのではなく、その物を本当においしいと思える物を与えた方がよい。味覚が未発達な(中3頃まで発達する)うちは、諦めずに何度でも食卓に上げる事が大事。

Q：給食で、1品ずつ食べる子どもが多い。少しずつ食べさせるにはどうすればよいのか。

A：こまめな声かけが大事。

ご飯 おかず ご飯 汁物 ご飯 おかず...というように、ご飯中心に食べるのが理想。1つずつ食べるより、色々と食べる方が味覚の発達に役立つ。味覚が育つと味覚の幅が広がり、好き嫌いが減る事につながる。

Q：センターの設備が古いという事だが、新しくなるとどうなるのか。

A：今現在、魚の塩焼きなどは無理(焼き物器がない)。焼いた魚を真空パックした物を買っているため、値段も高いし、パックのゴミが出る。他に、真空冷却器があれば、食中毒を気にせずサラダを作る事ができ、今よりも回数が増やせる(今は加熱処理などに時間がかかる)。

Q：アレルギー体質の子どもに対して給食センターはどのような対応をしているか。

A：給食の献立に何が入っているのか明記してある資料を提供している。

Q：給食量は、学校によって違うのか。

A：一律である。「学校給食は、決められた栄養価を与える」。不人気おかずはあるが、栄養価を考えるとどうしても使いたい食材(ex.ひじきやあさり鉄分が多いため使用したい)がある。

Q：食事のマナーが悪い。座り方・食器の持ち方・食器の返し方など、どう教えるのか。

A：家庭で何も言われていない子どもが多い。食事のマナーは、1日1回は家族で食事をして教わるのが理想である。

感想

・毎日の食に関する事なので興味深く拝聴しました。食べ方やいろいろな食材、味付けの料理をつくるとか、自分は母に生まれて育ったのに自分の子どもにはできていないと反省させられました。

・クイズなどを取り入れてあることで1時間楽しんで過ごすことが出来ました。

・子どもの味覚の幅を広げ、おもしろい話が聞けて参考になった。

・給食センターの実情や各学校の残菜の特色が分かり、とても参考になりました。センターの方々の苦労も分かり、今後も残菜に気をつけたいと思いました。

・4択の色紙のアイデアがとてもよかった。お話も楽しく聞けました。一度センターを見学してみたいです。もう一度家庭でも食べることについて見直したいと思いました。

・食事の仕方についてマナーなど耳の痛くなる話があって気をつけられないといけないと感じました。

・全体的に見て残菜はそう多くはないようですが越したことはないと思います。子どもはまだ味覚の発達が未熟なので家庭でもできることを考えましたが、食卓での食事を介した会話が大切なのはなかと先生のお話を聞いていました。

・好き嫌いも多く、マナーも悪い我が子は学校の給食では問題児だと思います。

・確実に残菜を出す献立もあります。味噌汁、おむすびだけにして、食について話し合う時間をもってもよいのでは。

・三角食べやし字食べなど初めて聞いたのでおもしろかったです。

・子どもたちに早速伝えたいこと、指導したいことの話が聞けて大変参考になりました。

## 地区懇談会を終えて

2小学校、1中学校の3校が一丸となって取り組んだ今年の地区懇談会。開催時期、内容など昨年の反省を生かして3校の会長さんを中心に議論を進めました。地区懇談会は地域に育つ子どもたちのためにと絶やしてはならない！この強い信念が会の運営に現れていました。市議員様、区長様、民生委員様はじめ多くのご来賓の参加により各分科会の話し合いや情報交換が活発になりました。同じテーマをさまざまな立場の方々が語り合う有意義な場になったと思います。子どもたちの今を、未来を共に考える良い機会でした。皆さん方の声を限られた紙面ではすべて掲載できませんでしたが、概ね各分科会の様子を感じ取っていただけたのではないかと思います。ご協力本当にありがとうございました。



## (5) 第5分科会「給食・残菜」

参加人数 34名

講師：栄養教諭 野田亜紀子先生



今年度から岩倉市に配置された栄養教諭の野田先生が、給食・残菜をテーマに講演されました。

・岩倉市内の七つの小中学校の給食は、一つの給食センターで作っている。中規模給食センターで古くからあるため、設備も不十分な点がある。そのため『提供したい給食』があっても作る事が出来ない、などの問題もある。

・岩倉市は、1つのセンターで4200食作っている。

・調理員は全員で19人いる。つまり1人で約220人分の給食を作っている。(調理時間8:30~11:00)

・給食費は、小学校220円・中学校250円 材料費だけで、人件費は入っていない。

今年度、牛などの飼料価格が上がったため、給食費を20円値上げした。

・1人1日当たりの残菜量(19年度平均)

北小24.3g・南小20.1g・東小10.3g・五小6.4g・曾小21.2g・岩中24.7g・南中11g

・残菜の処理方法

東小と南中にだけ、残菜処理機がある。子どもが残った給食を集める事によって、残った物を実感し、もったいないという気持ちも生まれる。

ご飯やパンは、養豚業者などに引き取ってもらう。

野菜の皮などは、生ゴミとして処理される。

・校外学習で給食センターを見学すると、残菜が減るという効果がある。実際に調理している様子などを見ると、残してはいけないという気持ちが生まれる。

・自分が作った物は残さず食べる傾向にあるので、子どもに食事を作る手伝いをさせると良い。